

★入浴時 急激な温度変化によるヒートショックで 意識消失が増加 寒暖差により血圧変動に伴う 死亡事故増加

西高東低の冬型気圧配置となり、3日近畿地方に「木枯らし1号」が吹いた。はや7日は「立冬」。短い秋が終わり、一気に冬になった。統計的には暑い時期よりも寒い時期の方が、寒暖差により血圧の変動が激しくなるため、心疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患で亡くなる人が増加。特に11月頃より、入浴時に急激な温度変化によるヒートショックで、意識消失が増加。2023年度入浴中に6300人が死亡。予防的に浴室・脱衣室・廊下・居室等の温度差を無くす事が大切で充分に気を付けてほしい。

★読書ゼロ 学年上昇に伴い増加 ベネッセ研究所が東京大と調査実施

10月27日～11月9日は「読書週間」。小1～高3の親子2万人を対象にベネッセ教育総合研究所が東京大と実施した調査結果(2015年～24年)によると『読書ゼロ』の割合は学年が上がるとともに高くなり、一方1日当たりのスマホの使用時間は2015年から大幅に増えている。読書時間が長い程、語彙力が高い傾向にあった。調査に関わったベネッセ総研の研究員は「デジタル機器は読書時間を侵食する可能性もあれば、それによって知的活動の幅を広げる可能性も持っている。大切なのは紙かデジタルかを問わず、まとまった文章にじっくり向き合う時間や、新しい世界に触れる機会を意識的に確保することです。」とコメントしている。

★★米国 関税 Vs 中國 レアアース対抗 米中國交正常化の立役者 キッシンジャー氏の回想録で 戦略思考で 米国はチェス Vs 中國は囲碁で戦っていると比喩

米国と中國が関税とレアアースでやりあっている。米中國交正常化の立役者であるアメリカの元国務長官キッシンジャー氏の回想録の言葉に、両国の戦略思考に於いて米国はチェス、中國は囲碁で戦っていると比喩した。チェスは“敵を倒す”ことで早く結果が出るが、囲碁は“世界を囲い込む”という長期戦になる。勝敗は一時的数字でなく、10年後どちらのルールで世界が動いているかで決まる。中國の軍事戦略についても、アメリカ一辺倒に頼るのではなく、中國を取り巻く世界規模で物事を考える事が必要であると思われます。

★★昭和後期～平成初期「今だけ・金だけ・自分だけ」から 令和の若者世代「今だけ・ここだけ・自分だけ」へ価値観の変遷

東京大学大学院農学生命科学研究科の鈴木宣弘教授が日本社会の病理を表すために用いた表現に「今だけ・金だけ・自分だけ」という言葉があります。これはバブル崩壊以降(昭和後期～平成初期)の日本では、目先の利益を追い、金銭が価値の中心になり、他者よりも自分が得をすることが評価される時代が長く続きました。しかし今、令和の若者の世代の価値観は変わりつつあり、彼らが無意識に持っているのは「今だけ・ここだけ・自分だけ」という感覚です。これは単なる利己主義ではなく、「せめて今」「せめてこの場所」「せめて自分だけは」という不安定な時代を生き抜くための防衛反応が基になっています。

将来が見えず、社会の構造も揺らぐ中で、安心できるのは「今・此処・自分」しかない。そう感じるのは若者たちに、私たちはどう向き合うべきでしょうか。小生は此処に次の時代への理想のヒントを見出します。それは「今を生き、共に生き、未来へつなぐ」という感覚です。自分の幸福を追いかながらも、他者と共に歩む。そしてその行動が、未来の社会を支える。そんな(共感と持続)の倫理が、次の時代の軸となると愚考されます。「今だけ・此処だけ・自分だけ」から「今を・共に・未来へ」の必要性を周りの若者に伝えていきたい。私たちがこの一步を踏み出せるかどうかが、これから社会の希望を決めると思われますがみなさま如何でしょうか。

風呂温度 一度上げます 秋迎え
新総理 ケンセキ 売ります 武器までも
腹減れば 熊・人ともに 危険なり
トランプに 好かれてなんぼ よく分かり

令和7年 小 雪